

(様式第 10)

16 福井大第 1531 号
平成 28 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 福井大学長
真弓光文 (印)

福井大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒910-8507 福井県福井市文京 3 丁目 9 番 1 号
氏 名	国立大学法人 福井大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福井大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 2 3 号 3 番地	電話 (0776) 61-3111
--------------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 神経内科 2 呼吸器科 3 消化器科 4 循環器科 5	6 7
8 9 10 11 12	13 14
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1 呼吸器外科	2 心臓血管外科	3 形成外科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 病理診断科	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41床	0床	0床	0床	559床	600床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	273人	95人	345.4人	看護補助者	56人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	8人	2人	9.3人	理学療法士	14人	臨床検査技師	40人
薬剤師	44人	0人	44人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	5人	その他	0人
助産師	15人	0人	15人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	693人	32人	712.5人	臨床工学士	11人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	9人
歯科衛生士	1人	1人	1.8人	歯科技工士	1人	事務職員	172人
管理栄養士	7人	2人	8.5人	診療放射線技師	29人	その他の職員	48人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	13人	眼科専門医	7人
外科専門医	20人	耳鼻咽喉科専門医	15人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	13人
小児科専門医	20人	脳神経外科専門医	9人
皮膚科専門医	3人	整形外科専門医	8人
泌尿器科専門医	11人	麻酔科専門医	10人
産婦人科専門医	12人	救急科専門医	11人
		合 計	157人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(腰地 孝昭) 任命年月日 平成28年 4月 1日

平成24年4月～平成28年3月 副病院長(医療安全担当)、医療安全管理委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	473.9人	6.7人	480.7人
1日当たり平均外来患者数	806.1人	28.0人	834.1人
1日当たり平均調剤数	入院： 626.5剤 外来： 46.0剤		
必要医師数	100人		
必要歯科医師数	3人		
必要薬剤師数	17人		
必要(准)看護師数	269人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	183.52 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	病床数	10床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 335.91 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	31床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 50.82 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	217m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体検査自動化総合システム			
細菌検査室	70m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査システム			
病理検査室	94m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 病理組織染色機, バーチャルスライド 遺伝子診断機器			
病理解剖室	55m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) マルチスライスCT装置, 永久磁石型オープンMRI装置			
研究室	4,686m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) リアルタイム定量PCR装置			
講義室	357m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	426人
図書室	1,861m ²	鉄筋コンクリート	室数	21室	蔵書数	13万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	68.1%	逆紹介率	54.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数	8,240人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	7,906人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,653人	
	D: 初診の患者の数	14,524人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
選定中				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
今後、決定する。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	タウ蛋白蓄積症に対するピタバスタチンカリウムの治療効果に関する臨床研究	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 高脂血症を伴うアルツハイマー病患者に対しピタバスタチンカリウムを投与し、進行予防効果につき認知機能、髄液タウの両面から検討する。			
医療技術名	インターフェロン併用シスプラチン・5-FU肝動注化学療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 外科的治療・経皮的肝的ラジオ波療法・肝動脈化学塞栓療法による治療が困難な肝癌に対して施行するインターフェロンを併用した肝動注化学療法。			
医療技術名	超音波内視鏡下腹腔神経叢ブロック術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 薬物治療によるコントロールが困難な癌性疼痛や慢性膵炎の疼痛に対して、超音波内視鏡を用いて腹腔神経叢に局所麻酔薬やエタノールを注入する治療法			
医療技術名	術中腹腔内温熱化学療法(HIPEC)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 大腸癌腹膜転移及び腹膜偽粘液腫を対象に治療を行っている。腹膜転移以外の切除不能因子の無い症例に対して、原発巣切除、可及的播種巣切除、リンパ節郭清等を行った後に、シスプラチン、エトポシド、マイトマイシンCを混和した生理食塩水を43℃に加温し、腹腔内を灌流することで腹膜転移に対して治療する。			
医療技術名	遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対するBRCA1、BRCA2遺伝子検査	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 乳癌卵巣癌の家族癌が濃厚な乳癌卵巣癌患者に対して遺伝カウンセリングと、施術後希望者にBRCA1またはBRCA2遺伝子検査を行う。抗癌剤選択、予防的卵巣切除、血縁者の乳癌卵巣癌検診を行う。			
医療技術名	FES-PET検査による乳癌患者における内分泌治療効果予測に関する研究	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 ホルモン受容体陽性の転移再発乳癌に対してエストロゲンを用いたPET検査を施行し、内分泌治療効果を予測する。			
医療技術名	唾液腺導管癌の進行例に対するホルモン療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 手術治療が不可能で、通常の化学療法にも効果を示さなかった唾液腺導管癌に対し、前立腺癌の治療法の1つである抗アンドロゲン療法を行っている。長期予後も得ている。			
医療技術名	腹腔内温熱化学療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 進行した卵巣癌に対して、癌とリンパ節を出来るだけ取り除き、抗がん剤を加温して腹腔内に投与する。			
医療技術名	小児脳幹悪性神経膠腫に対する、テモゾロマイド、ベバシズマブ併用療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 外科的治療が困難である小児悪性脳幹神経膠腫に対して、テモゾロマイド、ベバシズマブを点滴投与して腫瘍の増殖と脳浮腫を抑制し、progression-free survivalを延長する治療法			
医療技術名	脊髄内視鏡を用いた、脳脊髄液漏出症に対する診断と治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 画像検査で脊髄硬膜外腔への髄液漏出所見が確認された脳脊髄液漏出症に対して、脊髄内視鏡を用いて硬膜欠損部を同定し、直達手術により硬膜欠損部を閉鎖する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3人	56	ベーチェット病	24人
2	筋萎縮性側索硬化症	11人	57	特発性拡張型心筋症	12人
3	脊髄性筋萎縮症	0人	58	肥大型心筋症	1人
4	原発性側索硬化症	0人	59	拘束型心筋症	0人
5	進行性核上性麻痺	10人	60	再生不良性貧血	18人
6	パーキンソン病	90人	61	自己免疫性溶血性貧血	0人
7	大脳皮質基底核変性症	4人	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0人
8	ハンテントン病	1人	63	特発性血小板減少性紫斑病	34人
9	神経有棘赤血球症	0人	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1人
10	シャルコー・マリイ・トゥース病	1人	65	原発性免疫不全症候群	2人
11	重症筋無力症	28人	66	IgA腎症	4人
12	先天性筋無力症候群	0人	67	多発性嚢胞腎	9人
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	31人	68	黄色靱帯骨化症	29人
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	6人	69	後縦靱帯骨化症	94人
15	封入体筋炎	1人	70	広範脊柱管狭窄症	15人
16	クドウ・深瀬症候群	0人	71	特発性大腿骨頭壊死症	45人
17	多系統萎縮症	10人	72	下垂体性ADH分泌異常症	3人
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	22人	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0人
19	ライソゾーム病	6人	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0人
20	副腎白質ジストロフィー	0人	75	クッシング病	3人
21	ミトコンドリア病	11人	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0人
22	もやもや病	27人	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	5人
23	プリオン病	1人	78	下垂体前葉機能低下症	26人
24	亜急性硬化性全脳炎	0人	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
25	進行性多巣性白質脳症	0人	80	甲状腺ホルモン不応症	0人
26	HTLV-1関連脊髄症	0人	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0人
27	特発性基底核石灰化症	0人	82	先天性副腎低形成症	0人
28	全身性アミロイドーシス	6人	83	アジソン病	0人
29	ウルリッヒ病	0人	84	サルコイドーシス	47人
30	遠位型ミオパチー	0人	85	特発性間質性肺炎	26人
31	ベスレムミオパチー	0人	86	肺動脈性肺高血圧症	3人
32	自己食空腔性ミオパチー	0人	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0人
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0人	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2人
34	神経線維腫症	9人	89	リンパ脈管筋腫症	1人
35	天疱瘡	12人	90	網膜色素変性症	20人
36	表皮水疱症	3人	91	バッド・キアリ症候群	0人
37	膿疱性乾癬(汎発型)	5人	92	特発性門脈圧亢進症	0人
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2人	93	原発性胆汁性肝硬変	11人
39	中毒性表皮壊死症	2人	94	原発性硬化性胆管炎	2人
40	高安動脈炎	9人	95	自己免疫性肝炎	1人
41	巨細胞性動脈炎	0人	96	クローン病	34人
42	結節性多発動脈炎	3人	97	潰瘍性大腸炎	54人
43	顕微鏡的多発血管炎	9人	98	好酸球性消化管疾患	0人
44	多発血管炎性肉芽腫症	0人	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0人
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	1人	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0人
46	悪性関節リウマチ	3人	101	腸管神経節細胞僅少症	0人
47	パージャール病	8人	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0人
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0人	103	CFC症候群	0人
49	全身性エリテマトーデス	53人	104	コステロ症候群	0人
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	23人	105	チャージ症候群	0人
51	全身性強皮症	47人	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0人
52	混合性結合組織病	18人	107	全身型若年性特発性関節炎	0人
53	シェーグレン症候群	9人	108	TNF受容体関連周期性症候群	0人
54	成人スチル病	1人	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0人
55	再発性多発軟骨炎	1人	110	ブラウ症候群	0人

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0人	先天性ミオパチー	161	家族性良性慢性天疱瘡	0人
0人	マリネスコ・シェーグレン症候群	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	1人
3人	筋ジストロフィー	163	特発性後天性全身性無汗症	0人
0人	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164	眼皮膚白皮症	0人
0人	遺伝性周期性四肢麻痺	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0人
0人	アトピー性脊髄炎	166	弾性線維性仮性黄色腫	0人
0人	脊髄空洞症	167	マルファン症候群	1人
0人	脊髄髄膜瘤	168	エーラス・ダンロス症候群	0人
0人	アイザックス症候群	169	メンケス病	0人
0人	遺伝性ジストニア	170	オクシピタル・ホーン症候群	0人
0人	神経フェリチン症	171	ウイルソン病	0人
2人	脳表ヘモジリン沈着症	172	低ホスファターゼ症	0人
0人	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173	VATER症候群	0人
0人	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174	那須・ハコラ病	0人
0人	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175	ウィーバー症候群	0人
0人	ペリー症候群	176	コフィン・ローリー症候群	0人
0人	前頭側頭葉変性症	177	有馬症候群	0人
0人	ピッカーstaff脳幹脳炎	178	モワット・ウィルソン症候群	0人
0人	痙攣重積型(二相性)急性脳症	179	ウィリアムズ症候群	0人
0人	先天性無痛無汗症	180	ATR-X症候群	0人
1人	アレキサンダー病	181	クルーゾン症候群	0人
0人	先天性核上性球麻痺	182	アペール症候群	0人
0人	メビウス症候群	183	ファイファー症候群	0人
0人	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184	アントレー・ピクスラー症候群	0人
0人	アイカルディ症候群	185	コフィン・シリス症候群	0人
0人	片側巨脳症	186	ロスマンド・トムソン症候群	0人
0人	限局性皮質異形成	187	歌舞伎症候群	0人
0人	神経細胞移動異常症	188	多脾症候群	0人
0人	先天性大脳白質形成不全症	189	無脾症候群	0人
0人	ドラベ症候群	190	鰓耳腎症候群	0人
0人	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191	ウェルナー症候群	0人
0人	ミオクロニー欠神てんかん	192	コケイン症候群	0人
0人	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193	プラダー・ウィリ症候群	0人
0人	レノックス・ガストー症候群	194	ソトス症候群	0人
0人	ウエスト症候群	195	ヌーナン症候群	0人
0人	大田原症候群	196	ヤング・シンプソン症候群	0人
0人	早期ミオクロニー脳症	197	1p36欠失症候群	0人
0人	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198	4p欠失症候群	0人
0人	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199	5p欠失症候群	0人
0人	環状20番染色体症候群	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0人
0人	ラスムッセン脳炎	201	アンジェルマン症候群	0人
0人	PCDH19関連症候群	202	スミス・マギニス症候群	0人
0人	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	203	22q11.2欠失症候群	0人
0人	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204	エマヌエル症候群	0人
0人	ランドウ・クレフナー症候群	205	脆弱X症候群関連疾患	0人
0人	レット症候群	206	脆弱X症候群	0人
0人	スタージ・ウェーバー症候群	207	総動脈幹遺残症	0人
0人	結節性硬化症	208	修正大血管転位症	1人
0人	色素性乾皮症	209	完全大血管転位症	0人
0人	先天性魚鱗癬	210	単心室症	0人

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0人	左心低形成症候群	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0人
0人	三尖弁閉鎖症	260	シトステロール血症	0人
0人	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	261	タンジール病	0人
0人	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	262	原発性高カイトロミクロン血症	0人
0人	ファロー四徴症	263	脳髄黄色腫症	0人
0人	両大血管右室起始症	264	無βリポタンパク血症	0人
0人	エプスタイン病	265	脂肪萎縮症	0人
0人	アルポート症候群	266	家族性地中海熱	0人
0人	ギャロウェイ・モフト症候群	267	高IgD症候群	0人
0人	急速進行性糸球体腎炎	268	中條・西村症候群	0人
0人	抗糸球体基底膜腎炎	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0人
0人	一次性ネフローゼ症候群	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0人
0人	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	271	強直性脊椎炎	0人
0人	紫斑病性腎炎	272	進行性骨化性線維異形成症	0人
0人	先天性腎性尿崩症	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0人
0人	間質性膀胱炎(ハンナ型)	274	骨形成不全症	0人
0人	オスラー病	275	タナトフォリック骨異形成症	0人
0人	閉塞性細気管支炎	276	軟骨無形成症	0人
0人	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0人
0人	肺胞低換気症候群	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0人
0人	α1-アンチトリプシン欠乏症	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0人
0人	カーニー複合	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0人
0人	ウォルフラム症候群	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0人
0人	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0人
0人	副甲状腺機能低下症	283	後天性赤芽球癆	0人
0人	偽性副甲状腺機能低下症	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0人
0人	副腎皮質刺激ホルモン不応症	285	ファンconi貧血	0人
0人	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0人
0人	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	287	エプスタイン症候群	0人
1人	フェニルケトン尿症	288	自己免疫性出血病XIII	0人
0人	高チロシン血症1型	289	クロンカイト・カナダ症候群	0人
0人	高チロシン血症2型	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0人
0人	高チロシン血症3型	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0人
0人	メーブルシロップ尿症	292	総排泄腔外反症	0人
0人	プロピオン酸血症	293	総排泄腔遺残	0人
0人	メチルマロン酸血症	294	先天性横隔膜ヘルニア	0人
0人	イソ吉草酸血症	295	乳幼児肝巨大血管腫	0人
0人	グルコーストランスポーター1欠損症	296	胆道閉鎖症	0人
0人	グルタル酸血症1型	297	アラジール症候群	0人
0人	グルタル酸血症2型	298	遺伝性膀胱炎	0人
0人	尿素サイクル異常症	299	嚢胞性線維症	0人
0人	リジン尿性蛋白不耐症	300	IgG4関連疾患	1人
0人	先天性葉酸吸収不全	301	黄斑ジストロフィー	0人
0人	ポルフィリン症	302	レーベル遺伝性視神経症	0人
0人	複合カルボキシラーゼ欠損症	303	アッシャー症候群	0人
0人	筋型糖原病	304	若年発症型両側性感音難聴	0人
0人	肝型糖原病	305	遅発性内リンパ水腫	0人
0人	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	306	好酸球性副鼻腔炎	2人

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科外来診療環境体制加算	・退院調整加算
・特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1)	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・特定機能病院入院基本料 精神病棟(13対1)	・呼吸ケアチーム加算
・臨床研修病院入院診療加算 医科(基幹型)	・病棟薬剤業務実施加算
・臨床研修病院入院診療加算 歯科(単独型)	・データ提出加算2 イ(200床以上)
・救急医療管理加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料3
・妊産婦緊急搬送入院加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・診療録管理体制加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割未満)	・小児入院医療管理料3
・看護職員夜間配置加算	・
・看護補助加算2	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1 及び 感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・高度難聴指導管理料	・植込型心電図検査
・糖尿病合併症管理料	・時間内歩行試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・胎児心エコー法
・がん患者指導管理料1	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料2	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料3	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来緩和ケア管理料	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・補聴器適合検査
・院内トリアージ実施料	・ロービジョン検査判断料
・夜間休日救急搬送医学管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・ニコチン依存症管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・地域連携診療計画管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携計画策定料	・センチネルリンパ節生検1(併用法)
・がん治療連携管理料	・センチネルリンパ節生検2(単独法)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算2
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料1	・CT撮影 及び MRI撮影
・医療機器安全管理料2	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・大腸CT撮影加算
・持続血糖測定器加算	・心臓MRI撮影加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・HPV核酸検出	・外来化学療法加算1
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・無菌製剤処理料
・検体検査管理加算(IV)	・心大血管疾患リハビリテーション料(I) 及び 初期加算
・遺伝カウンセリング加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I) 及び 初期加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・運動器リハビリテーション料(I)及び初期加算	・経皮的冠動脈ステント留置術
・呼吸器リハビリテーション料(I)及び初期加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・がん患者リハビリテーション料	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・医療保護入院等診療料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・透析液水質確保加算2	・経皮的動脈遮断術
・一酸化窒素吸入療法	・ダメージコントロール手術
・歯科技工加算	・体外衝撃波膀胱石破碎術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・同種死体腎移植術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・生体腎移植術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・膀胱水圧拡張術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・網膜再建術	・手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
・人工内耳植込術	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・輸血管管理料 I
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・乳がんセンチネルリンパ節加算2(単独法)	・内視鏡手術用支援機器加算
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・経皮的冠動脈形成術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) 1 高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの	・麻酔管理料(I)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
SIRSを本体とする重症感染症に対する抗菌薬のサイトカイン産生抑制の意義	酒巻 一平	血液・腫瘍内科	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ホモシステインが促進するアルツハイマー病・タウ蛋白オリゴマー形成機序の解明	白藤 法道	神経内科	1,800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝臓の慢性炎症が誘導する発がん候補遺伝子におけるドライバー変異の同定	中本 安成	内科学(2)	4,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
マイクロキャピティアレイ液体生検技術を用いた肝がん再発超早期診断法の開発	中本 安成	内科学(2)	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
辺縁系脳炎型橋本脳症の臨床像と病態機序の解明	松永 晶子	内科学(2)	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
タウ蛋白オリゴマーが誘導するアルツハイマー病の分子機序の解明 臨床への応用	濱野 忠則	内科学(2)	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
間質性肺炎の治療効果早期予測における2時相18F-FDG PET画像の有用性	梅田 幸寛	呼吸器内科	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
プロトン感知性受容体OGR1の慢性気道炎症、気道分泌への関与に関する研究	石塚 全	内科学(3)	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
“脂肪心筋”が不整脈を起こすメカニズムの研究	鈴木 仁弥	内分泌・代謝内科	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アンジオテンシンIV受容体可溶性成分の高感度測定系構築と臨床的有用性の評価	此下 忠志	内科学(3)	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
医学的評価に基づく自閉症児のきょうだい支援システムの構築	川谷 正男	小児科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
経皮感作による食物アレルギー発症機序の解明と経皮免疫療法への応用	河北 亜希子	小児科	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
食物アレルギーに対する制御性T細胞誘導を利用した経皮免疫療法の開発	大嶋 勇成	小児科学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
オートファジー機能修飾により食物アレルギーを抑制する	安富 素子	小児科学	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃粘膜保護剤ゲラニルゲラニルアセトンを用いた気管支肺異形成症の新規予防戦略	徳力 周子	小児科学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
気道上皮における小胞体ストレス応答が気管支喘息の病態に与える影響	村井 宏生	小児科学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
亜鉛欠乏および社会的隔離による情動変化に関する基礎的研究	小俣 直人	神経科精神科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
神経ネットワークに着目した電気けいれん療法的作用機序の解明-脳波の非線形解析-	岡崎 玲子	神経科精神科	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
創造性が高齢者の脳機能に及ぼす影響-脳波の非線形解析を用いた統合的研究-	上野 幹二	精神医学	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ADHD児と自閉症児の前頭葉機能特性および薬物と療育効果による変化	松村 由紀子	精神医学	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
皮膚創傷形成から治癒過程におけるデルモカインβの役割	飯野 志郎	皮膚科	700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胎仔期循環血液内の間葉系幹細胞を利用した遺伝性・難治性皮膚疾患の新規治療法の確立	知野 剛直	皮膚科学	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
抗CX3CL1中和抗体を用いた全身性強皮症の治療法の開発	長谷川 稔	皮膚科学	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
子宮・卵巣疾患における非造影灌流MR画像法(ASL法)の開発と臨床応用	小坂 信之	放射線医学	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ASL脳循環代謝機能画像の開発と臨床応用展開の研究	木村 浩彦	放射線医学	1,500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
大腸癌におけるPROK1/EG-VEGF蛋白質発現と抗体療法の可能性の検討	五井 孝憲	外科学(1)	1,300,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ヒト胃癌細胞における癌幹細胞様細胞への形質転換とPAR1の関連	藤本 大裕	第一外科	1,500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
X線透過性素材(PEEK材)を用いた手術器具の開発	腰地 孝昭	外科学(2)	1,000,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
慢性圧迫脊髄に起因する疼痛や感覚障害に関する組織化学的検討	竹浦 直人	整形外科・脊椎外科	1,200,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
椎間板変性過程におけるマクロファージの動態と極性化の解明	小久保 安朗	整形外科科学	1,500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
CD271陽性骨髄幹細胞を用いた変形性関節症に対する軟骨再生治療の試み	宮崎 剛	整形外科・脊椎外科	800,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄損傷後慢性疼痛モデルの脳脊髄におけるCCL21とマイクログリアの組織学的検討	本定 和也	整形外科・脊椎外科	1,400,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄損傷における骨髄間質細胞移植効率向上のための病態解明と克服に関する基礎的研究	中嶋 秀明	整形外科科学	1,000,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
18FfluoroacetatePETを用いたアストロサイト機能での脳疾患の解明	根石 拓行	脳脊髄神経外科	500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
クラゲコラーゲンを利用した人工硬膜の作成とその性能評価	小寺 俊昭	脳脊髄神経外科	1,300,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Cu-ATSMを用いた血管内皮前駆細胞の生体内追跡とグリオーマ新生血管抑制療法	菊田 健一郎	脳脊髄神経外科学	900,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
体温依存性重要臓器血流分布における麻酔薬の効果	高倉 康	麻酔・蘇生学	1,000,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
心前負荷の指標としての左心室拡張終末期容量(Ved)のモニタの開発	重見 研司	麻酔・蘇生学	1,300,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
揮発性麻酔薬の液滴張り合わせ法の確立と膜相互作用	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	1,600,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生殖細胞の質をメンテナンスする:ミトコンドリア品質管理の観点より	折坂 誠	産科婦人科	1,500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
心音信号を用いた胎児心拍数細変動解析装置の開発と評価	玉村 千代	産科婦人科	1,500,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
超低出生体重児の消化管成熟に向けた治療戦略:肺サーファクタントを用いた動物実験	西島 浩二	産科婦人科	1,400,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
細胞内プラチナ濃度を制御するhCTR1とATP7Bに着眼した難治性卵巣癌治療戦略	黒川 哲司	産科婦人科学	1,200,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
in vivo 蛍光イメージングを利用したHPV感染細胞可視化の試み	品川 明子	産科婦人科学	1,300,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
分子イメージング法を応用した子宮肉腫肺転移機構の解明と新治療法の開発	吉田 好雄	産科婦人科学	6,800,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
未熟児における新たな腸管発育評価法の確立と腸保護戦略	奥野 貴士	小児科	900,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
neuromodulation:神経可塑への作用は過活動膀胱の新治療となり得るか	松田 陽介	泌尿器科	1,100,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
メタボ時代の夜間頻尿対策:膀胱C線維遮断は夜間多尿を改善する?	岡田 昌裕	泌尿器科	1,200,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
過活動膀胱は動脈硬化と関連しない低活動膀胱発症の危険因子か	関 雅也	泌尿器科	1,300,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
慢性ストレスと肥満:なぜ下部尿路機能障害を起こすのか?	横山 修	泌尿器科学	1,600,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業
食塩感受性高血圧モデル動物を用いた高血圧関連性夜間頻尿に関する研究	黒川 哲之	泌尿器科学	1,800,000	③ 日本学術振興会 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
海馬:認知症に伴う排尿障害治療の新たなターゲット	横井 聡始	泌尿器科学	900,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
涙液サイトカインをバイオマーカーとした網脈絡膜血管新生疾患の新しい検査法の創出	友松 威	眼科	900,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
免疫学に基づいた緑内障手術の新たな臨床エビデンスの確立	稲谷 大	眼科学	900,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
生体イメージングを用いた外因性ストレスが網膜神経節細胞の軸索流に与える影響の解析	三宅 誠司	眼科学	1,200,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
サイトカインをバイオマーカーにした新たな糖尿病黄斑浮腫評価法の創出と治療戦略	松村 健大	眼科学	1,200,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規ライブイメージングを駆使した、緑内障進行を予測する軸索輸送パラメータの同定	瀧原 祐史	眼科	1,000,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ミトコンドリア視神経軸索流をバイオマーカーにした新しい緑内障診断法の創出	稲谷 大	眼科学	3,400,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
水晶体における血管新生抑制因子の探索と血管新生緑内障の新しい病態概念の確立	高村 佳弘	眼科学	1,100,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ROS制御による頭頸部癌の化学放射線耐性の克服	成田 憲彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
遺伝子多型関連分子と難治性上気道好酸性球性病変局所の好塩基球に対する治療戦略	山田 武千代	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	3,500,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Mechanism of production and release of tissue plasminogen activator in airway epithelial cells	坂下 雅文	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,000,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アスピリン喘息鼻茸におけるL-plastinの役割	鈴木 弟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,600,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸性球性副鼻腔炎の病態形成における肥満細胞の役割に関する研究	高林 哲司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	800,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸性球性副鼻腔炎患者の鼻茸におけるTRP受容体の発現とその機能解析	徳永 貴広	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,200,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
頭頸部癌に対する化学放射線治療後の新しいPET検査による評価の検討	呉 明美	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	800,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
iPS細胞、ES細胞から甲状腺組織への分化誘導	菅野 真史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎発症機序の解明	加藤 幸宣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,700,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
頭頸部癌におけるタキソール耐性にCDKN3は関与するか	伊藤 有未	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,400,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎発症における肥満細胞脱顆粒の多面的研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,400,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
iPS細胞による嗅覚障害の再生医療への基礎研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,100,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
カテキンの上皮成長因子受容体分解作用を応用した口腔癌治療の検討	吉村 仁志	歯科口腔外科学	1,000,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
高齢者の異時性口腔癌制御を目的とした血管新生阻害剤局所注入療法の確立	佐野 和生	歯科口腔外科学	1,000,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
術後遷延性疼痛の脳内メカニズムの解明	中井 國博	形成外科	1,200,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脱分化軟骨細胞Lineage tracing法開発による軟骨細胞脱分化過程の解析	峯岸 芳樹	形成外科	1,000,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
間質病変の進展抑制におけるFSP1を介したポドサイトー尿細管上皮細胞連関の重要性	岩野 正之	腎臓病態内科学	4,000,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業
睡眠時無呼吸症候群-糖尿病性腎症連関(ポドサイト障害と尿中microRNA解析)	高橋 直生	腎臓内科	1,300,000	(補委) 日本学術振興会 科学研究費助成事業

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳梗塞に伴う過活動膀胱の発症予防を目指す非神経因性膀胱壁過緊張に関する研究	秋野 裕信	医療安全管理部	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ペルオキシノーム増殖因子活性化受容体の糸球体障害抑制作用の解析と新規治療薬の探索	木村 秀樹	検査部	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
Pathogenesis analysis of sciatica on lumbar disc herniation. Changes of nerve root evoked potentials and oxygen concentration induced by intraoperative SLR test	小林 茂	リハビリテーション部	300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ヒト後縦靭帯骨化症における伸展ストレスと遺伝子タンパク発現量変化に関する検討	杉田 大輔	リハビリテーション部	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
廃用性筋萎縮と深部静脈血栓症を予防する短下肢装具型の下腿三頭筋電気刺激装置の試作	嶋田 誠一郎	リハビリテーション部	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
大脳一末梢神経Dual stimulationを用いたリハビリテーションの開発	久保田 雅史	リハビリテーション部	200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
ADHD児の運動パターンの定量解析	成瀬 廣亮	リハビリテーション部	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
神経障害性疼痛に対する新しい電気刺激治療の確立	松尾 英明	リハビリテーション部	1,900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳機能イメージングによる小児愛着障害の病態解明と生理学的指標の確立	滝口 慎一郎	子どものこころ診療部	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
小型ロボットを用いた自閉症スペクトラム症児へのインタラクションの改善	熊崎 博一	子どものこころの発達研究センター	2,800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
これまでの研究の総力を結集させた愛着障害の早期診断・病態解析システムの開発・治療	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	4,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
唾液オキシトシン濃度測定による社会性評価の確立	小坂 浩隆	子どものこころの発達研究センター	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
自閉症スペクトラム障害の早期診断のためのオミックス解析と発達コホート研究	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	1,900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
精子エピジェネティックマークを介した子孫への行動異常の伝承	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新たな香り提示法による自閉症スペクトラム症児の嗅覚特性同定と療育への応用	熊崎 博一	子どものこころの発達研究センター	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃発癌を制御する食品のエピジェネティクス機構の解析	須藤 弘之	地域高度医療推進講座	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
津波被災地をフィールドとした下肢静脈エコー所見と止血機能検査の研究	山村 修	地域医療推進講座	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳機能画像による共感性破綻の病態解明	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	4,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
腫瘍分子イメージングによる効果的がん治療法開発のための総合研究	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	5,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
新しい脳内水動態画像化法の開発	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業
自閉症児へのロボットを用いたコミュニケーション訓練法の確立	熊崎 博一	子どものこころの発達研究センター	1,000,000	補委 公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
社交不安障害患者へのアンドロイドを用いた対面コミュニケーション訓練法の前備的研究	熊崎 博一	子どものこころの発達研究センター	2,480,000	補委 公益財団法人立石科学技術振興財団
「プレホスピタルにおける骨盤骨折の観察基準の作成」の研究助成	川野 貴久	救急部	300,000	補委 一般財団法人日本救急医療財団
新規抗腫瘍性ヌクレオシドアナログ、ベンダムスチンの作用機序の解明と耐性の克服	山内 高弘	内科学(1)	500,000	補委 公益財団法人 痛風財団
乳幼児期のマルトリートメント、とくに低栄養経験が子どもの脳発達に及ぼす影響	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	2,000,000	補委 公益財団法人 ダノン健康栄養財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
酸化ストレス・イメージングの認知症診断への応用に関する研究	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	5,000,000	補 委 公益財団法人 上原記念生命科学財団
骨髄間質細胞の関節内direct transplantationによる軟骨再生治療の試み	宮崎 剛	整形外科・脊椎外科	1,500,000	補 委 公益財団法人中富健康科学振興財団
本体研究 「StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験」 付随研究 「StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験 付随研究」	山口 明夫	消化器外科	21,600	補 委 財団法人がん集学的治療研究財団
慢性冠動脈疾患患者におけるイコサペント酸エチルの二次予防効果の検討 [Randomized trial for Evaluation in Secondary Prevention Efficacy of Combination Therapy - Statin and Eicosapentaenoic Acid (RESPECT-EPA)]	森下 哲司	循環器内科	150,000	補 委 一般財団法人生産開発科学研究所
新規結核菌抗原とDNAアジュバントを用いた成人肺結核に対するブースターワクチンの開発	岩崎 博道	感染制御部	17,448,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	24,817,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床情報の収集・解析、治療法の検討、臨床ネットワーク構築	岩崎 博道	感染制御部	1,000,090	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
免疫賦活薬の開発	中本 安成	内科学(2)	3,000,000	補 委 国立大学法人金沢大学
高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適な分子標的療法の確立と治療効果および有害事象を予測するバイオマーカーの探索的研究	岸 慎治	血液・腫瘍内科	1,500,000	補 委 国立研究開発法人国立がん研究センター
GWASプロジェクト、その他の病因・病態解明プロジェクト、強皮症の活動性・予後予測因子の抽出、新規治療開発	長谷川 稔	皮膚科学	275,000	補 委 国立大学法人熊本大学
クラウド型救急医療連携システムの研究	木村 哲也	救急医学	3,416,000	補 委 消防庁
未破裂脳動脈瘤患者に対するフェルモキトールを造影剤として使用したMRでのマイクロファージイメージングの実施可能性の検討 探索的臨床試験	有島 英孝	脳脊髄神経外科	37,800	補 委 国立大学法人滋賀医科大学
25-4-7心房細動の予防ならびに重症化の予測的診療体系の確立	夢田 浩	循環器内科学	800,000	補 委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
治療指針の策定に向けた臨床研究と基礎研究の実施	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,500,000	補 委 国立大学法人島根大学
ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究	畑 郁江	小児科学	6,500,000	補 委 学校法人久留米大学
後縦靭帯骨化症の病態解明・治療法開発に関する研究	内田 研造	整形外科	500,000	補 委 学校法人慶応義塾

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
オリジナル抗原HSP105由来ペプチドワクチンの適応拡大などに関する基礎的検討と症例登録への協力	中本 安成	内科学(2)	1,000,000	補 ⑤委 国立研究開発法人国立がん研究センター
C型肝炎患者におけるHLAクラスII領域SNPの検討	中本 安成	内科学(2)	2,600,000	補 ⑤委 国立大学法人山梨大学
食物アレルギーに対する免疫療法と効果判定法の開発	大嶋 勇成	小児科学	2,462,001	補 ⑤委 独立行政法人国立病院機構相模原病院
好酸球性鼻茸におけるプロテオーム解析と特異的蛋白の機能研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,500,000	補 ⑤委 独立行政法人国立病院機構相模原病院
12誘導心電図伝送システム実証事業	木村 哲也	救急医学	1,445,947	補 ⑤委 福井県知事
児童生徒の情動行動に関する基礎的研究と教育実践に関する研究	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	1,105,000	補 ⑤委 国立大学法人大阪大学大学院
心臓サルコイドーシスに関する診断と治療効果の全国実態調査	宇隨 弘泰	循環器内科	18,360	補 ⑤委 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
注視点検出技術を活用した発達障がい診断システムの開発	小坂 浩隆	子どものこころの発達研究センター	650,000	補 ⑤委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステム構築	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	5,963,100	補 ⑤委 国立研究開発法人科学技術振興機構
リブレガルを投与されたファブリー病患者を対象としたLyso-Gb3の測定(レトロスペクティブ研究)	福岡 良友	心臓血管病先進治療学	51,840	補 ⑤委 学校法人明治薬科大学
低侵襲治療用医療機器に最適なチタン系高強度・高靱性素材の開発	北井 隆平	脳神経外科学	520,000	補 ⑤委 公益財団法人ふくい産業支援センター

小計11
計129

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	高井 美穂子	感染症・膠原病内科	Reduced administration of rasburicase for tumor lysis syndrome: A single-institution experience	ONCOLOGY LETTERS 9, 5, 2119 - 2125, 2015年
2	井川 正道	神経内科	Increased oxidative stress is related to disease severity in the ALS motor cortex: A PET study	Neurology 84, 20, 2033-2039, 2015年
3	野坂 拓人	消化器内科	Ruptured hepatic metastases of cutaneous melanoma during treatment with vemurafenib: an autopsy case report	BMC clinical pathology 15, , 15, 2015年
4	内藤 達志	消化器内科	High-dose cyclophosphamide induces specific tumor immunity with concomitant recruitment of LAMP1/CD107a-expressing CD4-positive T cells into tumor sites	Cancer letters 366, 1, 93-99, 2015年
5	田中 知子	消化器内科	Pituitary metastasis of hepatocellular carcinoma presenting with panhypopituitarism: a case report	BMC cancer 15, , 863, 2015年
6	赤澤 悠	消化器内科	Preoperative diagnosis of cavernous hemangioma presenting with melena using wireless capsule endoscopy of the small intestine	Endoscopy international open 4, 3, E249-E251 , 2016年
7	梅田 幸寛	呼吸器内科	Prognostic Value of Dual-Time-Point 18F-FDG PET for Idiopathic Pulmonary Fibrosis.	Journal of Nuclear Medicine 56, 12, 1869 - 1875, 2015年
8	高橋 直生	腎臓内科	A heterozygous female with Fabry disease due to a novel alpha-galactosidase A mutation exhibits a unique synaptopodin distribution in vacuolated podocytes.	Clin Nephrol 83, 5, 301 - 308, 2015年
9	池田 裕之	循環器内科	Effect of postprandial hyperglycaemia on coronary flow reserve in patients with impaired glucose tolerance and type 2 diabetes mellitus	Diab Vasc Dis Res 12, 6, 405 - 410, 2015年
10	五井 孝憲	消化器外科	Hyperthermic intraperitoneal chemotherapy(HIPEC) is an effective and safety therapy for the patients with peritoneal metastases of colorectal cancer who underwent cytoreductive surgery(non-peritonectomy)and desirable to administer HIPEC as a first-line treatment	Academia Journal of Scientific Research 3, 7, 103-107, 2015年
11	呉林 秀崇	消化器外科	Prokineticin2 (PROK2) is an important factor for angiogenesis in colorectal cancer	Oncotarget 6, 28, 26242-26251, 2015年

12	五井 孝憲	消化器外科	The prognosis was poorer in colorectal cancers that expressed both VEGF and PROK1(No correlation coefficient between VEGF and PROK1)	Oncotarget 6, 30, 28790-28799, 2015年
13	五井 孝憲	消化器外科	Expression of Prokineticin-Receptor2(PK-R2)is a new prognostic factor in human colorectal cancer	Oncotarget 6, 31, 31758-31766, 2015年
14	藤本 大裕	消化器外科	PARI participates in the ability of multidrug resistance and tumorigenesis by controlling Hippo-YAP pathway	Oncotarget 6, 33, 34788-34799, 2015年
15	五井 孝憲	消化器外科	Hepatic artery infusion therapy is effective for chemotherapy-resistant liver metastatic colorectal cancer	World Journal of Surgical Oncology 13, , 296, 2015年
16	藤本 大裕	消化器外科	Sigmoid colonic metastasis by lymphatic spread occurring with unilateral Krukenberg tumor considered to be caused by stage IA early gastric cancer: A case report	Oncology Letters 11, 1, 668-672, 2016年
17	池田 岳史	呼吸器外科	Controlling air leaks using free pericardial fat pads as surgical sealant in pulmonary resection	The Annals of Thoracic Surgery 99, 4, 1170-1175, 2015年
18	横山 修	泌尿器科学	Tadalafil for lower urinary tract symptoms secondary to benign prostatic hyperplasia: a review of clinical data in Asian men and an update on the mechanism of action	Ther Adv Urol 7, 5, 249 - 264, 2015年
19	横山 修	泌尿器科学	Once-daily oxybutynin patch improves nocturia and sleep quality in Japanese patients with overactive bladder: Post-hoc analysis of a phaseIII randomized clinical trial	INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY 22, 7, 684 - 688, 2015年
20	黒川 哲之	泌尿器科学	Underlying mechanisms of urine storage dysfunction in rats with salt-loading hypertension.	Life Sci 141, , 8 - 12, 2015年
21	多賀 峰克	泌尿器科	A potential role for 6-sulfo sialyl Lewis X in metastasis of bladder urothelial carcinoma.	Urol Oncol 33, 11, 496.e1-496.e9, 2015年
22	横山 修	泌尿器科学	Add-on anticholinergic therapy for residual nocturia in patients with lower urinary tract symptoms receiving alpha 1-blocker treatment: a multi-centre, prospective, randomised study	WORLD JOURNAL OF UROLOGY 33, 5, 659 - 667, 2015年
23	長谷川 稔	皮膚科学	Use of dermoscopy in the evaluation of connective tissue diseases.	Dermatol Clin Res 1, 3, 41-48, 2015年
24	長谷川 稔	皮膚科学	Biomarkers in systemic sclerosis:Their potential to predict clinical courses.	J Dermatol 43, 1, 29-38 , 2016年

25	中嶋 秀明	整形外科	Surgical treatment of low lumbar osteoporotic vertebral collapse: a single-institution experience	J Neurosurg Spine 24, 1, 39 - 47, 2016年
26	渡邊 修司	整形外科	Early transplantation of mesenchymal stem cells after spinal cord injury relieves pain hypersensitivity through suppression of pain-related signaling cascades and reduced inflammatory cell recruitment	Stem Cells 33, 6, 1902-1914 , 2015年
27	相木 美那子	歯科口腔外科	Case of desmoplastic ameloblastoma arising in the anterior maxilla	Oral Health and Dental Management 15, 1, 861,1-4, 2016年
28	大場 誠悟	歯科口腔外科	Bimaxillary osteotomy using a physiological positioning strategy for skeletal class II with anterior open bite and gummy smile: case reports and review of the literature	Dentistry 6, 1, 356, 2016年
29	大場 誠悟	歯科口腔外科	The skeletal and dentoalveolar stability of the maxilla after LeFort I osteotomy for cant correction	CRANIO®: The Journal of Craniomandibular & Sleep Practice 34, 1, 38-42, 2016年
30	大場 誠悟	歯科口腔外科	Orthodontic treatment, including transplanted teeth and dento-alveolar osteotomy, for dental ankylosis after multidisciplinary treatment for rhabdomyosarcoma of the cheek: a case report and review	Oral Health and Dental Management 14, 5, 318-322, 2015年
31	市川 大以	歯科口腔外科	Epidermoid cyst of the buccal mucosa diagnosed by magnetic resonance imaging and ultrasonography: a case report and review of the literature	Oral Health and Dental Management-Current Research in Oral and Maxillofacial Radiology S3, , 832, 2015年
32	大場 誠悟	歯科口腔外科	A case of retinoblastoma metastasizing to the mandible and review of literature	CRANIO®: The Journal of Craniomandibular & Sleep Practice 34, 2, 133-138, 2016年
33	大場 誠悟	歯科口腔外科	Application of a real-time three-dimensional navigation system to various oral and maxillofacial surgical procedures	Odontology 103, 3, 360-366, 2015年
34	大場 誠悟	歯科口腔外科	Risk factors for postoperative hemorrhage after minor oral surgery in patients treated with antithrombotic agents	Odontology 103, 2, 227-232, 2015年
35	安富 素子	小児科	ACTN1 rod domain mutation associated with congenital macrothrombocytopenia.	Ann Hematol 95, 1, 141-144, 2016年
36	安富 素子	小児科	Successful myeloablative bone marrow transplantation in an infant with Wiskott-Aldrich syndrome and bacillus Calmette-Guerin infection	Pediatr Blood Cancer 62, 11, 2052 - 2053, 2015年
37	奥野 貴士	小児科	Diffuse neonatal hemangiomatosis in a very low-birthweight infant treated with erythropoietin	Pediatr Int 57, 2, e34-36 , 2015年

38	村井 宏生	小児科	Alternaria extract activates autophagy that induces IL-18 release from airway epithelial cells	BIOCHEMICAL AND BIOPHYSICAL RESEARCH COMMUNICATIONS 464, 4, 969 - 974, 2015年
39	徳力 周子	小児科学	Postnatal Changes in Humerus Cortical Bone Thickness Reflect the Development of Metabolic Bone Disease in Preterm Infants.	Disease Markers 2016, , 2176594, 2016年
40	徳力 周子	小児科学	Carboxyhemoglobin formation in preterm infants is related to the subsequent development of bronchopulmonary dysplasia	Disease Markers 2015, , 620921, 2015年
41	山本 真	産科婦人科	Impact on PET Texture Features of Imaging Biomarkers or Predicting Survival of Patients with Uterine Sarcoma- Preliminary Results	Biomarkers Journal 2, 1, 13, 2016年
42	高橋 望	産科婦人科	Amniotic fluid embolism triggered by hypertensive crisis due to undiagnosed pheochromocytoma in a pregnant subject with neurofibromatosis type 1	AACE Clinical Case Rep 1, 3, e178-181, 2015年
43	高橋 哲也	神経科精神科	Clozapine-Related Negative Myoclonus Associated With Urinary Tract Infection: A Case Report	JOURNAL OF CLINICAL PSYCHOPHARMACOLOGY 35, 2, 205 - 206, 2015年
44	有島 英孝	脳脊髄神経外科	Intrathecal baclofen pump implantation in prone position for a cerebral palsy patient with severe scoliosis: a case report	Neuromodulation 18, 3, 214-216 , 2015年
45	有島 英孝	脳脊髄神経外科	Occipital cephalocele with neural crest remnants?Radiological and pathological findings in a newborn boy	Childs Nerv Syst 32, 6, 1141-1144, 2016年
46	有島 英孝	脳脊髄神経外科	Spontaneous spinal epidural hematoma in a patient with acquired Factor X deficiency secondary to systemic amyloid light-chain amyloidosis	J Spinal Cord Med 38, 5, 641-644, 2015年
47	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	General anesthesia and intraoperative opioids do not affect postoperative delirium in femoral neck surgery	Anaesth Pain & Intensive Care 19, 3, 372 - 375, 2015年
48	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	A case of successful treatment with vasopressin for severe acute pancreatitis in a melancholic patient administrated antipsychotic agents	Anaesth Pain & Intensive Care 20, 1, 71-73, 2016年
49	都司 和伸	放射線科	Evaluation of staging and early response to chemotherapy with whole-body diffusion-weighted MRI in malignant lymphoma patients: A comparison with FDG-PET/CT	JOURNAL OF MAGNETIC RESONANCE IMAGING 41, 6, 1601 - 1607, 2015年
50	小坂 信之	放射線科	Standardized uptake value differences between primary and metastatic lesions in F-18-FDG PET/CT of patients with lung cancer	ACTA RADIOLOGICA 56, 11, 1329 - 1335, 2015年

51	北 章延	放射線部	Development of Simple Processing for Deleting Undershooting Artifact Using the FBP Method —Evaluation of Simulation Data—	Jpn J Radiol Technol 71, 3, 201 - 207, 2015年
52	川野 貴久	救急部	Shelter crowding and increased incidence of acute respiratory infection in evacuees following the Great Eastern Japan Earthquake and tsunami	Epidemiol Infect 144, 4, 787-795, 2016年
53	川野 貴久	救急部	Association between shelter crowding and incidence of sleep disturbance among disaster evacuees: a retrospective medical chart review study	BMJ Open 6, 1, e009711, 2016年
54	後藤 匡啓	救急部	Infectious Disease-Related Emergency Department Visits of Elderly Adults in the United States, 2011-2012.	J Am Geriatr Soc 64, 1, 31-36, 2016年
55	後藤 匡啓	救急部	Repeated attempts at tracheal intubation by a single intubator associated with decreased success rates in emergency department : an analysis of a multicentre prospective observational study	Emerg Med J 32, 10, 781 - 786, 2015年
56	嶋田 章弘	検査部	Serum CETP status is independently associated with reduction rates in LDL-C in pitavastatin-treated diabetic patients and possible involvement of LXR in its association	Lipids in Health and Disease 15, 1, 57-68, 2016年
57	友田 明美	Age2企画	Effectiveness of oral tipecidine administration for children with attention deficit/hyperactivity disorder: A 4-week, open-label clinical study.	Psychiatry Clin Neurosci Oct;69, 10, 658 - 659, 2015年
58	滝口 慎一郎	Age2企画	Ventral striatum dysfunction in children and adolescents with reactive attachment disorder: functional MRI study.	Br J Psychiatry Open 1, 2, 121 - 128, 2015年
59	熊崎 博一	Age2企画	Assessment of olfactory detection thresholds in children with autism spectrum disorders using a pulse ejection system.	Mol Autism 7, , 6, 2016年
60	藤澤 隆史	Age2企画	Anorexia nervosa during adolescence is associated with decreased gray matter volume in the inferior frontal gyrus	Plos One 10, 6, e0128548 , 2015年
61	藤澤 隆史	Age2企画	Neural basis of psychological growth following adverse experiences: a resting-state functional MRI study.	Plos One 10, 8, e0136427 , 2015年
62	熊崎 博一	Age2企画	Sex differences in cognitive and symptom profiles in children with high functioning autism spectrum disorders	Research in Autism Spectrum Disorders 13, 14, 1-7, 2015年
63	岡本 悠子	こころの発達開拓部門	The potential of nasal oxytocin administration for remediation of autism spectrum disorders	CNS Neurol Disord Drug Targets 15, 5, 564-577, 2016年

64	藤岡 徹	こころの発達開拓部門	Advanced test of attention in children with attention-deficit/hyperactivity disorder in Japan for evaluation of methylphenidate and atomoxetine effects.	Clin Psychopharmacol Neurosci 14, 1, 79 - 87, 2016年
65	藤岡 徹	こころの発達開拓部門	Gazefinder as a clinical supplementary tool for discriminating between autism spectrum disorder and typical development in male adolescents and adults.	Mol Autism 7, , 19 , 2016年
66	島田 浩二	発達脳機能イメージング研究部門	Fluency-dependent cortical activation associated with speech production and comprehension in second language learners	Neuroscience 300, , 474 - 492, 2015年
67	島田 浩二	発達脳機能イメージング研究部門	Reduced visual cortex grey matter volume in children and adolescents with reactive attachment disorder	NeuroImage: Clinical 9, , 13 - 19, 2015年
68	牧野 顕	分子プローブ開発応用領域	Development of novel PET probes targeting phosphatidylinositol 3-kinase (PI3K) in tumors	Nuclear Medicine and Biology 43, 1, 101 - 107, 2016年
69	田村 太朗	環境保健学	Relationships (I) of International Classification of High-resolution Computed Tomography for Occupational and Environmental Respiratory Diseases with the ILO International Classification of Radiographs of Pneumoconioses for parenchymal abnormalities	Ind Health 53, 3, 260 - 270, 2015年
70	田村 太朗	環境保健学	Relationships (II) of International Classification of High-resolution Computed Tomography for Occupational and Environmental Respiratory Diseases with ventilatory functions indices for parenchymal abnormalities	Ind Health 53, 3, 271 - 279, 2015年
71	石崎 武志	基礎看護学	Blunted activation of Rho-kinase in yak pulmonary circulation	Biomed Res Int 2015, , 720250, 2015年

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

小計8
計71

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1. 倫理審査申請から承認、研究の実施までの流れ (図) 2. 倫理審査申請書類の作成について 3. 倫理審査の申請から委員会審査、承認まで 4. 研究計画の実施状況報告及び終了 (中止) 報告について 5. 重篤な有害事象及び不具合への対応 6. 倫理審査委員会に関する情報 7. 倫理審査申請に関する問い合わせ先	
③ 倫理審査委員会の開催状況	(委員会開催) 年 1 2 回 (委員長及び委員 2 名による迅速審査) 年 8 3 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 1. 趣旨 2. 委員会の設置 3. 組織 4. 申告書の提出等	

5. 審査の方法 6. 審査結果の報告 7. 指導等 8. 事務 9. 雑則	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	【委員会開催】年15回 (委員全員による書面附議)年13回 (委員会開催) 年 2回 【委員長審査】年65回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年3回
・研修の主な内容 1. 平成27年9月30日(水) 17:30~18:30 「人を対象とする医学系研究を実施するための基礎知識及び介入研究に必要なモニタリングについて」 福井大学医学部附属病院 医学研究支援センター 渡邊 享平 講師 2. 平成28年3月16日(水) 17:30~18:30 「国際誌にアクセプトされる統計チェックリスト」 大阪大学大学院医学系研究科 臨床統計疫学寄附講座 新谷 歩 教授 3. 平成28年3月29日(火)、平成28年3月30日(水) 17:30~18:30 第1部:「研究計画書作成時の注意点とモニタリングについて」 第2部:「医学系研究の電子申請の方法」 福井大学医学部附属病院 医学研究支援センター 渡邊 享平 講師・徳永 貴広 特命助教	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科においては、専門医研修プログラムを有し、修練目標・研修方略等が掲げられた詳細なカリキュラムに沿って研修し、それぞれの専門医取得を目指す。

2 研修の実績

研修医の人数	117人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診・療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山内 高弘	血液・腫瘍内科	教授	26年	
岩崎 博道	感染症・膠原病内科	教授	29年	
中本 安成	消化器内科	教授	26年	
濱野 忠則	神経内科	准教授	25年	
石塚 全	呼吸器内科	教授	25年	
此下 忠志	内分泌・代謝内科	准教授	29年	
岩野 正之	腎臓内科	教授	28年	
冨田 浩	循環器内科	教授	30年	
五井 孝憲	消化器外科	教授	26年	
前田 浩幸	乳腺・内分泌外科	講師	26年	
腰地 孝昭	心臓血管外科	教授	31年	
佐々木 正人	呼吸器外科	准教授	27年	
横山 修	泌尿器科	教授	33年	
長谷川 稔	皮膚科	教授	24年	
中井 國博	形成外科	准教授	20年	
小久保 安朗	整形外科・脊椎外科	准教授	21年	
小林 茂	リハビリテーション科	准教授	32年	
稲谷 大	眼科	教授	20年	
藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	29年	
佐野 和生	歯科口腔外科	教授	37年	
大嶋 勇成	小児科	教授	30年	
吉田 好雄	産科婦人科	教授	27年	
和田 有司	神経科精神科	教授	38年	
菊田健一郎	脳脊髄神経外科	教授	24年	
重見 研司	麻酔科蘇生科	教授	31年	
木村 浩彦	放射線科	教授	28年	
林 寛之	救急科	教授	29年	
今村 好章	病理診断科	准教授	29年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 疾患に対する薬物療法を含む最新の治療について各領域の専門医を交えてディスカッションを行い、新薬とその特徴、薬剤選択のポイントと副作用の早期発見及び予防の方法について学ぶ。・研修の期間・実施回数 2～3時間程度の研修を年度中に4回実施した。・研修の参加人数 30名程度
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	医学部附属病院長 腰地 孝昭
管理担当者氏名	総務管理課長 柘植 智司 経営企画課長 壬生 篤志 医療サービス課長 吉野 孝博 医療情報部長 菊田 健一郎 医療安全管理部長 秋野 裕信 感染制御部長 岩崎 博道 薬剤部長(事務取扱) 岩崎 博道 放射線部長 木村 浩彦 ME機器管理部長 夢田 浩

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院部総務管理課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	病院部医療サービス課(病歴室)
		看護記録	病院部医療サービス課(病歴室)
		検査所見記録	病院部医療サービス課(病歴室)
		エックス線写真	各診療科
		紹介状	病院部医療サービス課(病歴室)
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事労務課
		高度の医療の提供の実績	病院部総務管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院部総務管理課
		高度の医療の研修の実績	病院部総務管理課
		閲覧実績	病院部総務管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	病院部医療サービス課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院部医療サービス課及び薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

外来診療録は、1患者1ファイル、入院診療録は、1患者1入退院1ファイルで病歴室において中央管理している。電子診療録として、1患者1ファイルを医療情報部において管理している。なお、診療録の持ち出しは禁止としている。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	病院部総務管理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器管理部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器管理部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	病院部総務管理課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院部 医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
職員研修の実施状況	医療安全管理部		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	医学部附属病院長 腰地 孝昭	
閲覧担当者氏名	総務管理課長 柘植 智司	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟会議室	
閲覧の手続の概要		
諸記録の閲覧の申請を担当係に行う。 申請内容を確認の後、閲覧資料の準備を行う。 所定の場所（主に管理棟の会議室）において閲覧。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 医療に係る安全管理の基本的考え方(2) 医療に係る安全管理の体制(3) 職員研修に関する基本方針(4) 医療に係る安全確保の改善方策に関する基本方針(5) 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針(6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。）(7) 相談への対応に関する基本方針(8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無（有・無）・ 開催状況：年 12回・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 医療安全管理の指針に関すること。(2) 医療安全管理の対策及び改善に関すること。(3) 医療安全管理に係る指導及び助言に関すること。(4) その他医療安全管理の重要事項に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 11回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 全職員を対象に、平成 27 年 5 月 28 日に院内講師による「病理解剖と Ai オートプシーイメージング」について研修を行った。(2) 全職員を対象に、平成 27 年 6 月 15 日に院内講師による「診療録の記載について－医療監視を受けて－」について研修を行った。(3) 全職員を対象に、平成 27 年 7 月 13 日に院内講師による「周術期における患者管理」について研修を行った。(4) 全職員を対象に、平成 27 年 8 月 4 日に外部講師による「医療事故調査制度」について研修を行った。(5) 全職員を対象に、平成 27 年 9 月 9 日に外部講師による「医療安全に繋がるホスピタリティ」について研修を行った。(6) 全職員を対象に、平成 27 年 10 月 28 日に院内講師による「生体情報モニター」について研修を行った。(7) 全職員を対象に、平成 27 年 11 月 25 日に院内講師による「医療機器関連による皮膚障害」について研修を行った。(8) 全職員を対象に、平成 27 年 12 月 21 日に院内講師による「他施設の重大事故から学ぶ医薬品の安全管理」について研修を行った。(9) 全職員を対象に、平成 28 年 1 月 22 日に院内講師による「大学間相互チェックを受けて改善したこと」「被ばく予防のためのプロテクター管理」について研修を行った。(10) 全職員を対象に、平成 28 年 2 月 17 日に院内講師による「誤嚥の判例から病院の中で求められている事について考える」について研修を行った。(11) 全職員を対象に、平成 28 年 3 月 7 日に院内講師による「暴言・暴力の対応」について研修を行った。	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - (1) 各部署から報告されたオカレンスレポートは、医療安全管理部にて部署リスクマネージャー並びに現場から速やかに聴き取り調査・分析を行い、原因を究明している。さらに改善を要すると判断された重大な事例については、当該診療科長に是正措置を求め、改善策の有効性を確認・検討し、実施状況を検証している。
 - (2) 医療事故防止強化月間を定め、重要事項を決めて医療事故防止に取り組んでいる。
 - (3) 毎月2回実施部署を決め、院内パトロールを実施している。
 - (4) 各部門の管理担当者が参加するカンファレンスを週1回程度開催し、医療安全対策に係る取組の評価等を行っている。
 - (5) 日々定期的に院内を巡回し、各部門における医療安全対策の実施状況を把握・分析し、医療安全確保のために必要な業務改善のための具体的な対策を推進している。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 院内感染対策に関する基本的な考え方(2) 院内感染対策に関する管理体制(3) 職員研修に関する基本方針(4) 感染症発生状況の報告に関する基本方針(5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針(6) 指針の閲覧に関する基本方針(7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 感染予防対策の確立に関すること。(2) 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。(3) 感染源の調査に関すること。(4) 感染予防に係る諸調査及び情報の収集に関すること。(5) その他感染対策についての重要事項に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 11 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 全職員を対象に、平成 27 年 5 月 14 日に院内講師による「血液関連感染症 (HIV/AIDS を中心に) と感染対策」について研修を行った。(2) 全職員を対象に、平成 27 年 6 月 26 日に院内講師による「抗菌薬の使用/薬剤耐性菌と感染対策」について研修を行った。(3) 全職員を対象に、平成 27 年 7 月 29 日に院内講師による「病院環境と感染対策」について研修を行った。(4) 全職員を対象に、平成 27 年 8 月 21 日に外部講師による「予防接種の最新情報」について研修を行った。(5) 全職員を対象に、平成 27 年 9 月 28 日に外部講師による「今求められる、感染対策のあり方」について研修を行った。(6) 全職員を対象に、平成 27 年 10 月 21 日に院内講師による「季節性の感染対策」について研修を行った。(7) 全職員を対象に、平成 27 年 11 月 25 日に院内講師による「疥癬の感染対策」について研修を行った。(8) 全職員を対象に、平成 27 年 12 月 21 日に院内講師による「排尿障害と尿路感染対策—尿路のカテーテル管理を中心に—」についての研修を行った。(9) 全職員を対象に、平成 28 年 1 月 22 日に院内講師による「結核と非結核性抗酸菌症 感染の危険性と感染予防」について研修を行った。(10) 全職員を対象に、平成 28 年 2 月 17 日に院内講師による「口腔感染症と口腔ケア」について研修を行った。(11) 全職員を対象に、平成 28 年 3 月 7 日に院内講師による「造血器悪性腫瘍の感染管理」について研修を行った。	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - (1) 感染症発生状況は感染制御部に報告され、感染制御部のメンバーのうち医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたICTが日々モニタリングを行っている。また、1週間に1回程度定期的に院内を巡回し、現場確認を行っている。また、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、感染制御部長より文書で改善を依頼し、各部署とのカンファレンスや現場のラウンド等で確認している。
 - (2) 感染制御部員が定期的に実施場所を決め、ラウンドを実施している。
 - (3) 各部署のリンクナースはICNと連携し、各看護単位の感染対策上の問題点を抽出し、改善策を実施している。
 - (4) ICNが日々細菌室状況をもとに当該部署を巡回し、感染対策の確認と改善指導を行っている。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂内容、その他院内の医薬品安全管理に関連する手順の変更の周知・ 新規作用機序の医薬品に関する教育、ハイリスク薬に関する教育・ 新規採用医師・看護師に対する医薬品安全使用のための教育	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 ((有)・無)・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医療安全管理部と連携し、院内パトロールの機会を通して重要事項の周知状況や医薬品の管理状態などを確認・ 病棟薬剤師による医薬品情報の周知やスタッフの業務状況の把握・ 医薬品の安全使用に重要な情報は院内の委員会を通じて周知する他、カンファレンス等で直接薬剤師が説明している	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ((有)・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品安全使用上、把握が必要な医薬品の処方に応じて出力されるレポートを活用し、担当薬剤師が適正使用の状況を確認し、医薬品安全管理室に報告する・ 薬剤師が疑義照会した処方の内容を医薬品安全管理室が定期的にレビューし、問題事例を把握している	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 2 9 回
・ 研修の主な内容： ・ 新規購入の医療機器に関し、納品時に使用説明を含めた研修を行った。 ・ 人工呼吸器や保育器等の高度な医療機器に関して、不定期に研修会を実施した。 ・ 新規採用職員を対象とした医療機器の研修を行った。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 ((有)・無) ・ 保守点検の主な内容： ・ 重要医療機器に関し、年間保守計画を立てて定期的実施している。 ・ また、必要に応じて定期間隔で点検を実施している医療機器もある。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (財) 日本医療機能評価機構及び (独) 医薬品医療機器総合機構から情報を収集し、必要に応じて医療安全管理部と医療機器安全管理委員会により、活用及び改善対策をとっている。	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全担当の副病院長を医療安全管理責任者とし、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(5名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室による国内外の医薬品情報の収集・整理 (PMDA メディナビの活用、SAFE-DI の活用、文献情報等)、調剤時の疑義照会記録のレビュー、あらかじめ定義した医薬品について医師の処方と共に薬剤部に出力されるレポートを活用し状況を確認している。</p> <p>病棟薬剤師からの医局、病棟等カンファレンスにおける情報提供、医薬品情報室による情報提供、さらに必要に応じてリスクマネージャー会議で周知等を行っている。</p> <p>医療安全管理部門カンファレンス並びに医療安全管理パトロールにて、当該周知状況の確認を行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>倫理委員会で承認された「使用承認」情報の共有、医局カンファレンス等で病棟薬剤師が知り得た情報の報告、疑義照会記録のレビューにより把握。対応が不十分な事例については、医師に対して必要な手続きの依頼を行うなど対応している。</p> <p>なお、平成 28 年 9 月に医薬品安全管理要項を制定、並びに薬剤部要項を整備し、医薬品安全管理責任者の業務を明確にした。</p> <p>・担当者の指名の有無 有・無</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・規程の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 侵襲性のある治療や検査の場合は、患者・家族にインフォームド・コンセントを得ることが必要である。2. 患者の意思決定に係わる必要な情報を正確に提供する。<ol style="list-style-type: none">1) 現在の病態及び診断名2) 治療・検査などの必要性、目的、具体的内容、期待される効果と限界3) 治療・検査などに伴う、危険性の具体的な程度・頻度、過去の治療・検査成績とその対処方法4) 治療・検査などを受けなかった場合に想定される経過、予後5) 代替的治療・検査などがある場合には、その内容と効果とリスク3. 重要な病状説明を患者・家族に行う場合には病状説明書を使用し、説明後に署名された病状説明書を家族に手渡し、その原本をカルテに保管する。 説明した日時、同意を得た日時、説明を受けた人の患者との関係、説明者、同席者、説明内容、患者・家族などからの質問と反応、それに対する対応などをカルテ内の IC の欄に記載する。4. 内容に一貫性をもたせるために指導医とともに、或いはチームとして説明を行う。また、看護師が同席し情報の共有化を図る。5. 患者の理解を促すために図、解剖書、模型、動画などを用いて説明し、理解できたかを確認する。	

- 6. 説明は患者のプライバシーを守る場所で行う。
- 7. 病態や治療法に関し、可能な限り情報を公開し、患者本人の意志を尊重する。
- 8. 個々の検査結果は、患者に十分説明するよう心掛ける。
- 9. 血液サンプル、摘出標本の学術研究への使用に関しても同意を得る。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・活動の主な内容：</p> <p>診療情報管理部長を診療録等の管理に関する責任者とし、診療録等の記載内容等の定期的な確認を行っている。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（2）名、兼任（17）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（5）名 うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（6）名</p> <p>※ 専任の薬剤師は医療安全管理部門の業務に5割以上従事している。 （経過措置適用のための計画書を提出済）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務 ・報告されたオカレンスレポートの調査・分析 ・3b以上のオカレンスが発生した場合の診療録及びインフォームド・コンセントの確認、オカレンス審議委員会で用いられる資料の作成、並びに議事録の作成・保存 ・オカレンス審議委員会で究明された原因及び改善策等の審議結果についての当該部署への指導 ・各部署リスクマネージャーへの支援、連絡調整 ・医療安全の確保のための対策の推進 ・職員の医療の安全に関する意識の向上の確認 <p>・医療に係る安全の確保に資する診療の状況を把握する手段として、肺血栓塞栓症予防ガイドラインWGにて手順を作成し、手術時の血栓予防策実施のモニタリングを来年度から実施する予定である。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・規程の主な内容：</p> <p>関係学会から提示予定の「高難度新規医療技術の導入に当たっての基本的な考え方」を基に平成29年3月末日までに作成する予定である。</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無）
- ・規程の主な内容：
平成 29 年 3 月末日までに医薬品安全管理委員会に担当部門を設置するとともに規程を作成する予定である。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有 無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有 無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有 無

監査委員会の委員を選定しているところであり、監査委員会を設置し、来年度から外部監査が実施できるよう準備を進めている。

- ・監査委員会の開催状況：年 回
- ・活動の主な内容：
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有 無）
- ・委員名簿の公表の有無（有 無）
- ・委員の選定理由の公表の有無（有 無）
- ・公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 83件（平成28年4月～8月）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 44件

・医療安全管理委員会の活動の主な内容

影響レベル3b以上のオカレンスレポート並びに死亡退院報告は、速やかに病院長に報告している。報告状況の確認として、死亡退院報告については、医療安全管理部が全ての死亡退院患者の診療記録を点検し、当該主治医からの報告状況を確認し、報告されていない場合には当該診療科に適切に報告するよう指導している。また、オカレンスレポートについては、多職種から報告されており、他部署で発生したオカレンスについても関わりのあった他部署からの報告があるため医療安全管理部で発生状況が把握でき、報告すべき職員が報告していない場合には、適切に報告するよう指導している。

部署リスクマネージャーに対して、オカレンス報告の意義、部門リスクマネージャーの責務について指導している。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

立入り等の方法や内容については、厚生労働省から示されると説明を受けているため、厚生労働省から示される立ち入りの方法、内容を参考に来年度から実施する予定である。

- ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ） 無）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ） 無）
- ・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

「よろず相談窓口」を設置し、患者やその家族からの医療安全に関する相談に適切に応じる体制を確保している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・無 ）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

平成28年度医療安全管理部研修計画に基づき実施している。

- (1) 全職員を対象に平成28年6月20日に「生体モニター管理」について研修を行った。
- (2) 全職員を対象に平成28年8月24日に「インフォームド・コンセントと診療録」について研修を行った。
- (3) 全職員を対象に平成28年10月13日に「特定機能病院の安全に係る規定」について研修を実施する予定である。

また、当該研修に関するe-learningシステムを構築し、平成28年10月に稼働開始予定である。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

国立大学附属病院長会議が実施する研修に来年度から参加させる予定である。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 BSIグループジャパン株式会社、最初の認証取得日 平成15年9月10日 直近の認証取得日 平成27年9月10日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 1. 病院公式ホームページの公開 2. 情報誌「フロンティア」の発行・地域への配布 3. 「病院のご案内」の発行・地域医療機関への配布 4. 日刊県民福井に「元気で医こう」と題し、医療に関する記事を毎週(土)掲載。 5. 福井県内及び石川県加賀地区の医療機関を、地域医療連携コーディネーターと地域医療連携部看護師が各診療科における得意な診療のリーフレット等を持参して訪問し、本院の情報提供を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・中高年外来(産婦人科、総合診療部との連携)を実施 ・がん診療推進センター(各診療科) キャンサーボードの実施 ・歯科の周術期における口腔機能の管理(歯科口腔外科と各診療科)	

(様式第 8)

16 福井大第 1369 号
平成 28 年 9 月 7 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 福井大学長
眞 弓 光 文 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

副病院長に関する要項で規定している医療安全担当の副病院長を医療安全管理責任者とした。また、従来から医療安全管理委員会の委員長に病院長、構成員に医療安全担当の副病院長を置き、医療安全担当の副病院長が医療安全管理委員会、医療安全管理部門を統括していた。

平成 28 年 9 月中に医療安全管理責任者が医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する体制を構築する予定である。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

平成 28 年 9 月に医薬品安全管理要項を制定、並びに薬剤部要項を整備し、医薬品安全管理責任者の業務を明確にし、平成 28 年 10 月からは活動をより一層充実させていく予定である。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 9 月に医療安全管理要項を整備し、医療安全管理部長をインフォームド・コンセントに関する責任者とする予定である。

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

インフォームド・コンセントに関する規程（マニュアル）は、医療安全管理マニュアルに掲載し院内の全部署に配布している。また、毎年度、医療安全管理部から各部署リスクマネージャーに見直しを図り、改訂を行っている。

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

従来から診療情報管理部長を診療録等の管理に関する責任者とし、診療録等の記載内容等の定期的な確認を行っている。平成28年10月から確認実施を記録し、より一層適切な診療録等の管理を実施していく予定である。

6. 規則第9条の23第1項第10号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

オカレンス報告システムにて、影響レベル(0~5)並びに死亡退院の報告が医療安全管理部にオカレンスレポートとして提出されている。報告状況の確認として、死亡退院報告については、医療安全管理部が全ての死亡退院患者の診療記録を点検し、当該主治医からの報告状況を確認し、報告されていない場合には当該診療科に適切に報告するよう指導している。また、影響レベル(0~5)のオカレンスレポートについては、多職種から報告されており、他部署で発生したオカレンスについても関わりのあった他部署からの報告があるため医療安全管理部で発生状況が把握でき、報告すべき職員が報告していない場合には、適切に報告するよう指導している。

各部署から報告されたオカレンスレポートは、医療安全管理部にて、部署リスクマネージャー並びに現場から速やかに聴き取り等の調査・分析を行い、原因を究明している。さらに、改善を要すると判断された重大な事例については、当該診療科長に是正措置を求め、改善策の有効性等を確認・検討し、実施状況を検証し病院長に報告している。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

福井大学における公益通報に関する通報・相談受付窓口にて医療安全管理に関する情報提供を受け付けることとし、平成28年9月に病院職員に対して周知する予定である。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

医療に係る安全の確保に資する診療の状況を把握する手段として、肺血栓塞栓症予防ガイドラインWGにて手順を作成し、手術時の血栓予防策実施のモニタリングを来年度から実施する予定である。

職員の医療の安全に関する意識の向上の状況を確認する方法として、各人のネームプレートに医療安全に関する研修会への参加回数明示のシールを貼布し、職員の研修の受講状況を可視化している。また、各部署へのパトロールを実施し、医療安全に関する意識向上の状況を確認している。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

医療安全管理部要項を整備し、平成 29 年 3 月末日までに医療安全管理部に担当部門を設置する予定である。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

関係学会から提示予定の「高難度新規医療技術の導入に当たっての基本的な考え方」を基に平成 29 年 3 月末日までに作成する予定である。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

医薬品安全管理要項を整備し、平成 29 年 3 月末日までに医薬品安全管理委員会に担当部門を設置する予定である。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

規程の作成については関係部署と検討を重ねているところであり、平成 29 年 3 月 31 日までに規程を整備する予定である。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

監査委員会の委員を選定しているところであり、監査委員会を設置し、来年度から外部監査が実施できるよう準備を進めている。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

立入り等の方法や内容については、厚生労働省から示されると説明を受けているため、厚生労働省から示される立入りの方法、内容を参考に来年度から実施する予定である。